

1. 集計結果

○回答数

- ・保護者による評価 23人（24人中）
- ・職員による自己評価 11人（11人中）

○実施期間

- ・2019年12月20日～2020年1月15日

○評価の数値状況

- *別紙を参照

2. 分析・討議

○保護者による評価

- ・「活動の場所の面積が適切であるか」は、「はい」が22人ある。ただし、「わからない」が1人ある。施設は、基準面積を満たしており、指導訓練室は80㎡あるため、決して狭いわけではないが、比較する対象がわかりにくいのだろう。
- ・「指導員の配置人数は適切であるか」は、「はい」が22人ある。「不安的な時期に、そばにいてほしい指導員さんがいる息子にとって、配置人数が多く、安心している」という意見があるように評価されている。
- ・「子どもにとって危険がともなうようなことがなくて、子どもを安心して通わせられるか」は、「はい」が18人ある。ただし、「わからない」が5人ある。施設内の状況をつぶさに見たことがないからだろう。
- ・「虐待と思われるようなことがなくて、子どもを安心して通わせられるか」は、「はい」が23人（全員）ある。「虐待など絶対ないとわかるくらい、丁寧に支援してもらい、安心して通っている」という意見があるように、虐待などの心配がないと評価されている。
- ・「火災や地震、感染症などの対策がなされているか」は、「はい」が19人ある。ただし、「わからない」が4人ある。消防設備や火災報知器が設置され、防火・防災訓練や、感染症対策の研修会を行なっていることが伝わっていない人もいるのだろう。
- ・「個人情報の取り扱いに十分注意されているか」は、「はい」が21人ある。ただし、「わからない」が2人ある。「個人情報保護指針」にもとづき、個人情報を取り扱うこと、個人が特定される文章や写真などを外部に出す必要があるときは、必ず事前に、保護者の同意を得ていること、個人情報に関わる資料やデータなどは、鍵のかかる書庫で保管していることが伝わっていない人もいるのだろう。
- ・「子どもの育ちの状況を確認、保護者との面談もしながら、個別支援計画書が半年に1回は見直し、作成されているか」「子どもに応じた活動が作り出されるとともに、屋内や屋外の活動、長期休業中の活動などが工夫されているか」「子どもは活動を楽しみに参加しているか」「活動に満足しているか」はすべて、「はい」が23人（全員）ある。「よく子どもの状況を見ていると思う」「経営が厳しい中、子ども1人ひとりの力を引き出すべく、さまざまな工夫がされている」「学校とも家

とも違う楽しみ方をしている」「その日の様子に合わせ、無理することなく、ほかの子どもと関わるよう支援してもらっている」「楽しく活動している」「土曜日も通わせてもらい、感謝している」「とても助かっている」という意見があるように評価されている。

- ・「入会するとき、運営規程、活動の内容、利用者負担などについて、ていねいに説明がなされたか」「保護者の思いや願いを汲み取るため、懇切に対応されているか」は、それぞれ、「はい」が22人ある。「保護者と面談を行なうなどして、子どもについての状況や意見などを聞き取られているか」は、「はい」が23人（全員）ある。「保護者に子どもや活動の状況を報告する機会がつけられているか」は、「はい」が22人ある。「卒後の進路先について考えこんでいたところ、図らずも声をかけてもらい、話をすることで決断できた」「成長を感じられるように報告してもらえ、うれしい」「本人が言えないので、活動の様子を見るのが楽しみ」「毎日、細かく教えてもらえるので安心」という意見があるように評価されている。
- ・「苦情などの意見を寄せたときは、懇切に対応され、改善策をすみやかに伝えられているか」は、「はい」が20人ある。ただし、「わからない」が1人、「いいえ」が1人ある。他の事業所の状況を聞いたものも含まれているようなので、社会的な現状を踏まえての回答なのだろう。
- ・「会報などが定期的に作られて、活動の状況を知らせたり、保護者の交流を促したりされているか」「親子行事、きょうだいの会など、保護者や家族が交流できる機会が工夫されているか」「保護者が自主的につくる父母会に協力するなどして、保護者同士のつながりをつくろうとされているか」は、「はい」が23人（全員）ある。「会報は、いつも楽しみにしている」「行事などは、いつも工夫されていて、準備が大変だろうなと思いつつ、楽しみにしている」という意見があるように評価されている。

○職員による自己評価

- ・44項目中41項目で、「はい」が11人（全員）または10人ある。全体として、高い自己評価になっている。
- ・「子どもの表面的な事ごらを並べるのではなくて、働きかけて、肯定的な事実をつくりだし、それを意味づけようとしているか」「大人の目の育ちに応じてしか子どもは見えてこないという、自省的な意識をもって、子どもを理解しようとしているか」は、それぞれ、「はい」が9人ある。ただし、それぞれ、「わからない」が2人ある。子どもの表面に表われた否定的な現状に振り回されず、その中に込められた願いや悩みを探り、肯定的な意味を確かめているかどうか、あるいは、そうやって、子どもを理解する力量を高める努力をしているかどうかを聞く項目であるため、回答がたやすすくない。自分自身を謙虚に振り返っている人がいるのだろう。
- ・「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」は、「はい」が5人ある。ただし、「わからない」が4人、「いいえ」が2人ある。外部の研修会は、休日に開かれることが多いため、非常勤職員の場合は、家庭などの事情があり、参加しにくい人もいることの表われだろう。
- ・「保護者の言葉の内側に込められた思いや願いを汲み取ろうとして、懇切に対応しているか」は、「はい」が9人ある。ただし、「わからない」が2人ある。保護者への対応について、反省的に振り返っている人がいることの表われだろう。

3. 改善目標

○保護者による評価

- ・ほとんどが、高い評価となっている。活動内容の充実や、保護者との関係づくりをいっそう図っていきたい。
- ・活動場所の面積、指導員の配置人数、施設内の整備、防火・防災対策、感染症対策、個人情報保護などは、現状がどうなっているかなどを、機会をとらえて、さらに伝えていきたい。

○職員による自己評価

- ・ほとんどが、高い評価となっている。内部の研修会などをつうじ、子ども1人ひとりを理解することが大事であることを、いっそう学び合っていきたい。主体的に学んでいくために、ディスカッションの機会をつくることを、引き続き重視したい。
- ・外部の研修会は、非常勤職員の中には、家庭などの事情で参加しにくい人もいるものの、機会をとらえて、参加を引き続き呼びかけたい。

4. 公表方法

○保護者・職員への文書の配布（2019年2月より）

○ホームページへの掲載（2019年2月より）